

令和5年度第3回前橋市教育情報利活用推進委員会の開催結果について

総務課

会議名	令和5年度第3回前橋市教育情報利活用推進委員会
日時	令和6年2月26日(月) 午後3:30~4:45
場所	前橋市役所 11階南会議室
出席者	<p>(委員: 11名)</p> <p>委員長 吉川教育長</p> <p>副委員長 片貝教育次長、金井指導担当次長</p> <p>委員 高橋総務課長、相原学務管理課長、田村学校教育課長 内山教育支援課長、岡田参事兼情報政策課長、 都所学校校長会代表、藤井公立学校教頭会会長、 青木悠樹群馬大学理数データ科学教委育研究センター長</p> <p>(委員長指名による出席者: 1名)</p> <p>古暮学校教育課副参事兼情報教育推進係長</p> <p>(事務局: 1名) 霜田総務課教育DX担当係長</p>
議題	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 前橋市教育委員会における教育のDX化の進捗状況について</p> <p>(2) 前橋市教育情報利活用推進委員会設置要綱の改正について</p> <p>(3) 前橋市学校教育情報化推進計画の改定について</p> <p>(4) 情報セキュリティポリシーの改定について</p>
結果概要	<p>吉川教育長挨拶の後、事務局から上記の4項目について報告した後、意見交換を行った。</p> <p>〈主な報告内容〉</p> <p>(1) 前橋市教育委員会における教育のDX化の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的建造物等の3次元データを活用し、臨江閣の3D計測を行い、YouTube配信を行った他、学校給食費のコンビニ収納を昨年8月から開始した。</li> <li>・学校預かり金のキャッシュレス化は、導入済みの学校(1校)を参考に、他校にも展開できるよう取り組んで行く。</li> </ul> <p>(2) 前橋市教育情報利活用推進委員会設置要綱の改正について</p> <p>前橋市教育情報利活用推進委員会の委員に教育委員会事務局の全所属長を追加した他、ICT基盤整備部会は、外部専門家を置くことができるメリットを生かし、関係する所属長の参加を可能とする等の改正を行った。</p> <p>(3) 前橋市学校教育情報化推進計画の改定について</p> <p>令和6年1月22日から2月13日までパブリックコメントを実施し、3人の個人と学校2校から20件の意見があり、その内訳は、「計画策定に関すること」は10件、「学校教育の情報化に関すること」は10件であった。</p> <p>今後、パブリックコメントの意見をもとに、推進計画改定版への追記や今後の施策の参考としていく。</p> <p>(4) 情報セキュリティポリシーの改定について</p> <p>現行の教育情報系のセキュリティポリシーは、クラウドサービスの利用について記載されているが、学校現場でのクラウドサービス</p>

	<p>を利用した授業をより充実させるため、文部科学省のガイドラインに則り、データの重要性分類やデータの保存場所について変更（改定）する。</p>
<p>主な意見等</p>	<p>(1) 前橋市教育委員会における教育のDX化の進捗状況について      〈学校校長会代表〉      学校預り金のキャッシュレス化に向けたシステムの導入は、現金を金融機関に納める手間は無くなるが、個人のデータ管理が膨大になる他、未納者への対応事務や教材業者への支払い業務がこれまでと変わらず発生することが懸念される。</p> <p>(2) 前橋市教育情報利活用推進委員会設置要綱の改正について      特に意見なし</p> <p>(3) 前橋市学校教育情報化推進計画の改定について      〈学校校長会代表〉      ・プログラミング教育は論理的思考力を高めると言われ取り組んできているが、主体的・対話的で深い学びから少しズレてしまうようにも感じた。      ・「授業実践のための研修の充実」とあるが、授業の作り方自体を変えて行かなければならず、ICTを使う場面を想定した上での授業作りが大切である。      〈公立学校教頭会長〉      「各種チラシ等の配付の合理化」については、チラシの配信が多すぎると情報の区別が付きづらくなってしまうため、今後システムを検討する際には、情報の重要度などが分かるよう検討してほしい。</p> <p>(4) 情報セキュリティポリシーの改定について      〈情報政策課長〉      情報セキュリティポリシーの原則は「分かりやすい」ことが大切であり、関係者がポリシーを見て守ることが必要である。</p> <p>(5) 意見交換      〈学校校長会代表〉      児童生徒が長い文章を作成する時はキーボードの使用も検討したい。「授業の作り方」を改めて見直しする必要があると感じた。      〈公立学校教頭会長〉      学校では校務支援システム「c4t h」の文書連絡は印刷せずに閲覧できるようなシステムの検討をお願いしたい。      〈外部専門家〉      通信状況が悪く、ICTを活用した授業が止まることに教員が恐怖を感じるという意見があったが、トラブルを一つ一つ解決していく努力が必要であり、学校で起きる不具合は記録しておいたほうがいい。      〈指導担当次長〉      今までの「教え込み」の授業から、子供が「学び取る」授業に代えて行こうと言う全体の流れが出来ており、ICTの有効活用をしっかりと考えることが「学び取る」授業に繋がると感じた。      〈教育長〉      「教科の学びをつなぐ。社会課題等の解決や一人一人の夢の実現に活かす。」ことは、容易に達成できる目標ではないが、高見の目標を掲げて、ここに到達するためにはICTをどのように活用していくのかをみんなで検討していければと思う。そうすることで自らの可能性を広げ、新たな価値を創り出す学びの充実に繋がると考えている。</p>